

第13編 標 識

1. 標識情報の構成.....	13-1
1-1 構成.....	13-1
1-2 作成概要.....	13-2
2. 標識情報の作成方法.....	13-3
2-1 作成単位.....	13-3
2-2 作成タイミング.....	13-3
2-3 作成者.....	13-3
2-4 作成内容.....	13-4
3. 標識情報の作成定義.....	13-6
3-1 【削除】基本資料情報.....	13-6
3-1-1 【削除】基本資料情報の作成.....	13-6
3-1-2 【削除】添付ファイルの命名規則.....	13-6
3-1-3 【削除】添付ファイルの作成規則.....	13-6
3-1-4 【削除】標識配置図.....	13-6
3-1-5 【削除】標識一般図.....	13-6
3-1-6 【削除】写真.....	13-6
3-1-7 【削除】その他資料.....	13-6
3-2 工事情報.....	13-7
3-2-1 支柱基本情報.....	13-7
3-2-2 【削除】支柱基本情報資料.....	13-14
3-2-3 区域内支柱情報.....	13-15
3-2-4 区域外支柱情報.....	13-24
3-2-5 標識板情報.....	13-29
3-2-6 施工補修情報.....	13-32

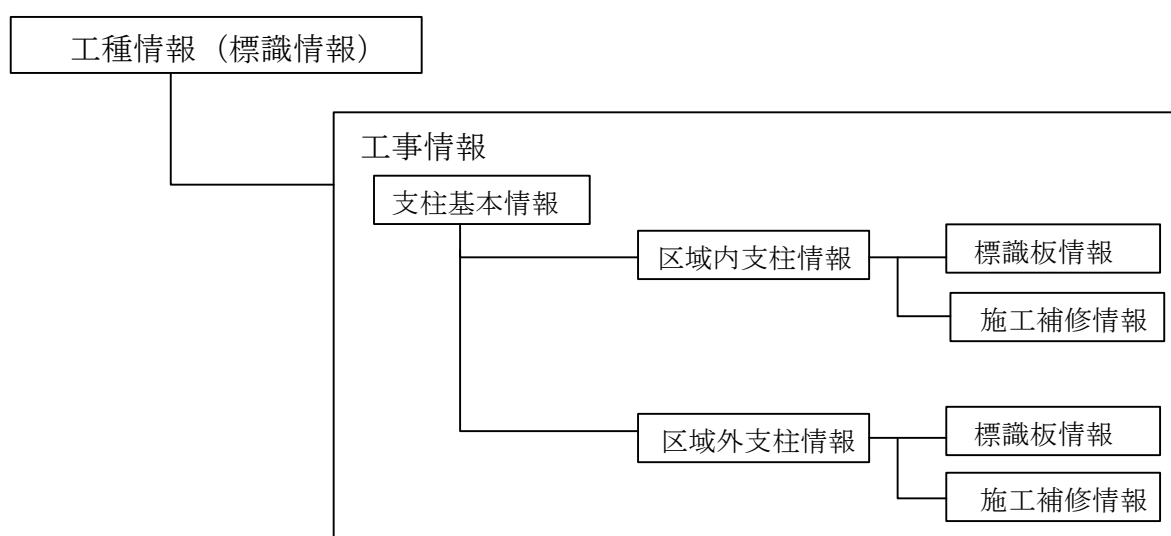
1. 標識情報の構成

1-1 構成

標識情報とは、標識工事の内容を取りまとめたしゅん功書類の1つであると共に、管理部門への引継ぎ資料とするものである。情報のデータ活用は、設定する標識の管理・資産状況を把握する上での基礎データとなるものであり重要な情報である。

情報の構成は、工事記録収集システムでデータ入力（作成）を行う各種情報に分類されている「工事情報」から成る。

なお、工事記録収集システムへのデータ入力の際に参照した 標識配置図、標識一般図等は、必要に応じて監督員に提出すること。



1-2 作成概要

標識情報には、「支柱基本情報」「区域内支柱情報」「区域外支柱情報」「標識板情報」「施工補修情報」の各情報がある。基本的なデータ作成区分について下表に一覧表で示す。また、データ作成の際に基本とする考え方を、作成単位、作成タイミング、作成者に説明する。作成内容では、各項目でのデータ作成に際し記載しているが「2-1. 作成単位」を踏まえデータ作成を実施すること。

データ作成区分表

情報項目	作成単位	作成内容	作成タイミング		作成者	
			建設時	補修時	会社	受注者
						標識
支柱基本情報	1 支柱毎	標識柱番号、道路名、管理支社局、事務所等を示す。	○	○	△	○
区域内支柱情報	1 支柱毎	始点側 IC、終点側 IC、設置区分、上下線区分等の所在を示す。	○	○	△	○
区域外支柱情報	1 支柱毎	目標 IC、占用場所、占用道路名等の所在を示す。	○	○	△	○
標識板情報	1 標識板毎	標識板番号、標識分類、設置箇所等を示す。	○	○	△	○
施工補修情報	1 支柱毎	経歴番号、施工補修年月、施工補修箇所等を入力する。	○	○	—	○

※ 記号の凡例 ○：データ作成 △：一部作成 —：作成無

2. 標識情報の作成方法

2-1 作成単位

作成対象とする標識は、会社が管理する本線（連絡休憩等施設を含む）及び市街地に存在する全ての標識とし、1 標識 1 支柱単位で入力する。なお、距離標（キロポスト）及び非常電話（本体）は、対象としない。

なお、1 支柱に複数の標識板が追加されている場合は、標識板情報の標識板番号で対応する。

2-2 作成タイミング

標識データを作成するタイミングは、「建設時」、「補修時（供用後管理段階）」の2つに大別される。

(1) 建設時

建設時でのデータ作成は、各標識工事の進捗に合わせて適宜データ作成を実施して、しゅん功検査までに完成させ提出する。

追加 IC 等による本線、市街地の標識の設置は建設時の取扱いとする。

(2) 補修時

補修時（供用後管理段階）においては、標識板の取替え、型式変更などに伴う補修内容を工事の進捗に合わせて適宜データ作成して、しゅん功検査までに完成させ提出する。

2-3 作成者

建設時におけるデータ作成者は、設計受注者が初期データを作成し、該当標識工事完成時に標識工事受注者が作成する。

補修時（供用後管理段階）においては、工事受注者がデータ作成する。

(1) 建設時

作成者	作成内容
監督員	業務内容とデータ内容・件数を確認する。
設計受注者	当該設計に関するデータを作成する。
工事受注者	当該工事に関するすべてのデータに対し修正・更新・追加する。

(2) 補修時

作成者	作成内容
監督員	業務内容とデータ内容・件数を確認する。
工事受注者	当該工事に関するすべてのデータを作成する。

2-4 作成内容

(1) 【削除】

(2) 工事情報

工事記録収集システムに入力する主なデータ項目は、下記のものがある。

情報名	主な項目
支柱基本情報	標識柱番号、道路名、管理支社局、領域内容、領域連番、内外区分
区域内支柱情報	始点側 IC、終点側 IC、設置区分、上下線区分、ルート区分、建設_STA、建設_ランプ名、建設_No、管理_KP、管理_ランプ名、管理_No、連絡・休憩等施設、構造型式、柱寸法、梁寸法、基礎寸法（縦・横・高さ・直径・基数）
区域外支柱情報	目標 IC、占用場所、占用道路名、占用地住所、占用地管理者、他の施設利用、構造形式、柱寸法、梁寸法、基礎寸法（縦・横・高さ・直径・基数）
標識板情報	標識板番号、標識分類、設置箇所、標識板種別、ローマ字併用、表示内容、縦寸法、横寸法、直径、車道からの高さ、標識令番号、目標連絡施設、目標休憩等施設、案内標識種別、設置補修年月
施工補修情報	経歴番号、施工補修年月、施工補修箇所、施工補修内容、補修理由、備考、契約番号

ただし、工事情報の内容確認するために下表の資料について、必要に応じて監督員に提出すること。

資料名	資料の概要
標識配置図	標識の位置を示すもので、標識番号を付与したもの、撤去の情報があれば示すものとする。なお、図示等する場合は場所を明確にしなければならない。

(3) 標識配置図作成方法

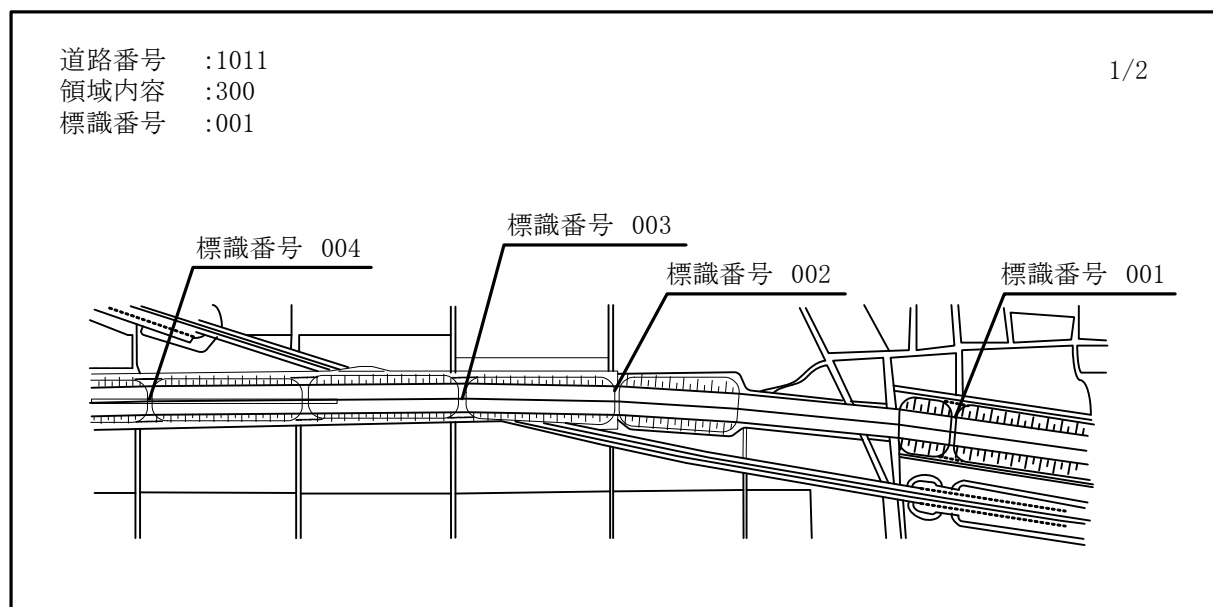
(a) 1 標識番号を 001、002、003・・・と付与し、分かりやすく表記する。

(b) 図面は、A3 の縮小版とする。

(c) 各図面に、道路番号、起点 IC 及び標識番号を表記する。

図面の右上に、各番号毎の枚数を「通し番号／全体枚数」で表記する。

例) 同一の標識番号が 2 枚の平面図にまたがる場合は、[1/2]、[2/2] とする。



3. 標識情報の作成定義

3-1 【削除】基本資料情報

3-1-1 【削除】基本資料情報の作成

3-1-2 【削除】添付ファイルの命名規則

3-1-3 【削除】添付ファイルの作成規則

3-1-4 【削除】標識配置図

3-1-5 【削除】標識一般図

3-1-6 【削除】写真

3-1-7 【削除】その他資料

3-2 工事情報

工事で実施したカルバートに関するデータを工事記録収集システムに入力するものである。

3-2-1 支柱基本情報

標識支柱毎にユニーク（重複しない）番号を付与すると共に、当該標識の設置場所が、区域内・外かを示すものである。

(1) 標識柱番号

道路番号（4桁）+領域内容（4桁）+領域連番（4桁）の12桁を表記する。

・《注意》

- ・既供用路線と隣接する新規路線については、既供用路線で付与している既存標識の標識柱番号と重複した標識柱番号を付与してはならない。
- ・標識柱番号の付与にあたっては、監督員に付与できる空き番号等を問合せのものとする。

なお、標識柱番号は、必ずしも連番である必要はない。

標識柱番号は、以下のとおり作成する。

区域内支柱、区域外支柱の各情報の中で重複しない番号とする。

標識柱番号は、標識板が設置されている場所（区域内支柱・区域外支柱）で用いた標識柱番号と同じものを入力する。



第13編 標識

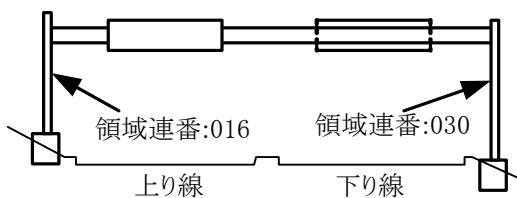
項目	ケース
(ア)	上下線の区分は、設置されている標識板が、上下線のどちら用に設置されているかで区分する。
(イ)	門型支柱の場合
	上下線両方向に標識板がある場合
	上り線方向に標識板がある場合
	上下線両方向に標識板がある場合（ランプを含む）
	下り左ルート・下り右ルート両方に標識板がある場合
(ウ)	下り左ルート・下り右ルートに跨る門型支柱の場合
(エ)	中央分離帯に標識板が設置されている場合
(オ)	0Vに標識板が設置されている場合
(カ)	ランプ進入口等に標識板が設置されている場合（1支柱に標識板が前後に2つある場合）

(ア) 上下線の区分は、設置されている標識板が、上下線のどちら用に設置されているかで区分する。

(イ) 門型支柱の場合

上下線両方向に標識板がある場合は、上り線、下り線の各々を作成する。

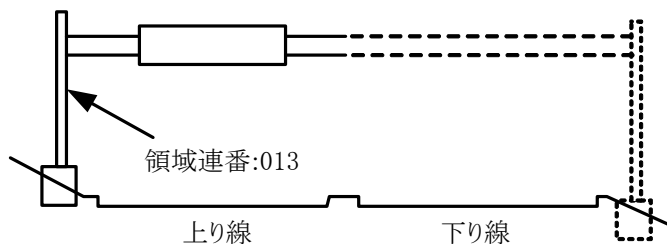
【上下線両方向に標識板がある場合】



上下線別々に作成する

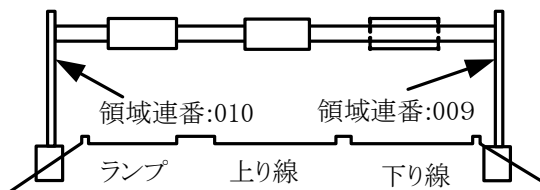
	「標識柱番号」				+ 「標識板情報」							
	道路番号				領域内容				領域連番			
上り線	1	4	0	0	A	3	1	0	0	1	6	+ 上り線本線板
下り線	1	4	0	0	B	3	1	0	0	3	0	+ 下り線本線板

【上り線方向に標識板がある場合】



		「標識柱番号」				+ 「標識板情報」									
上り線	道路番号	1	4	0	0	領域内容	A	3	1	領域連番	0	0	1	3	+ 上り線本線板

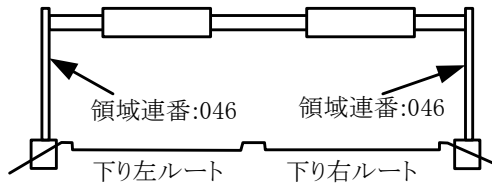
【上下線両方向に標識板がある場合（ランプを含む）】



ランプ上の標識版は、本線の支柱として取り上げる。

		「標識柱番号」				+ 「標識板情報」									
上り線	道路番号	1	4	0	0	領域内容	A	3	1	領域連番	0	0	1	0	+ ランプ板
下り線	道路番号	1	4	0	0	領域内容	B	3	1	領域連番	0	0	0	9	+ 下り線本線板

【下り左ルート・下り右ルート両方に標識板がある場合】

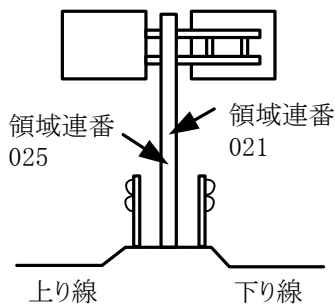


左ルート、右ルートの区分はない

		「標識柱番号」				+ 「標識板情報」							
		道路番号		領域内容		領域連番							
下り線		1	4	0	0	B	3	1	0	0	4	6	+ 下り線本線左ルート板
		1	4	0	0	B	3	1	0	0	4	6	+ 下り線本線右ルート板

(ウ) 下り左ルート・下り右ルートに跨る門型支柱の場合、進行方向（下り側）にしか標識板がなければ、下り線として入力する。

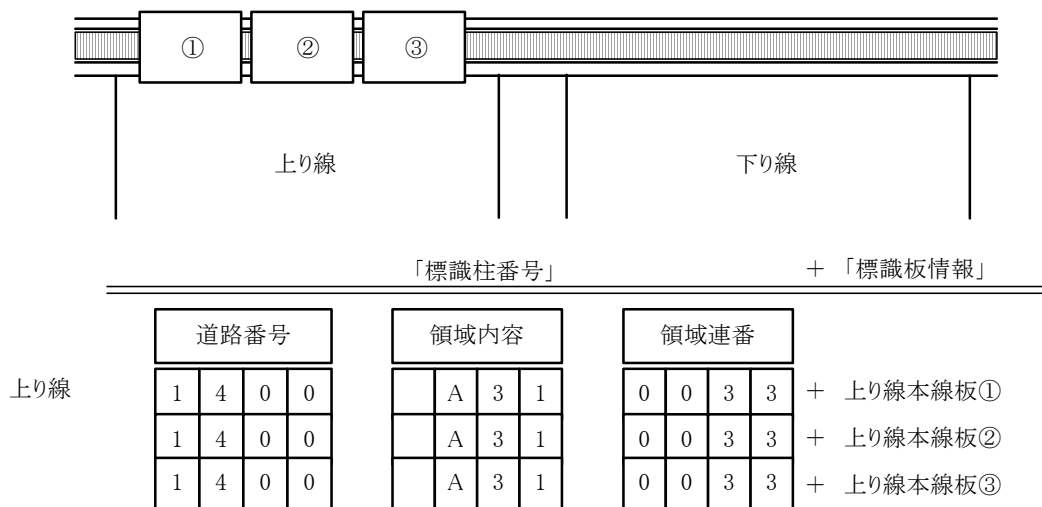
(エ) 中央分離帯に標識板が設置されている場合



上下線別々に入力する。(2本として計上する)

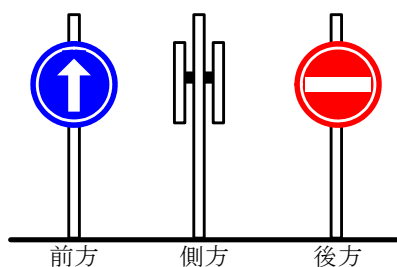
		「標識柱番号」				+ 「標識板情報」							
		道路番号		領域内容		領域連番							
上り線		1	4	0	0	A	3	1	0	0	2	5	+ 上り線本線板
下り線		1	4	0	0	B	3	1	0	0	2	1	+ 下り線本線板

(オ) 0V に標識板が設置されている場合



(カ) ランプ進入口等に標識板が設置されている場合

(1 支柱に標識板が前後に 2 つある場合)



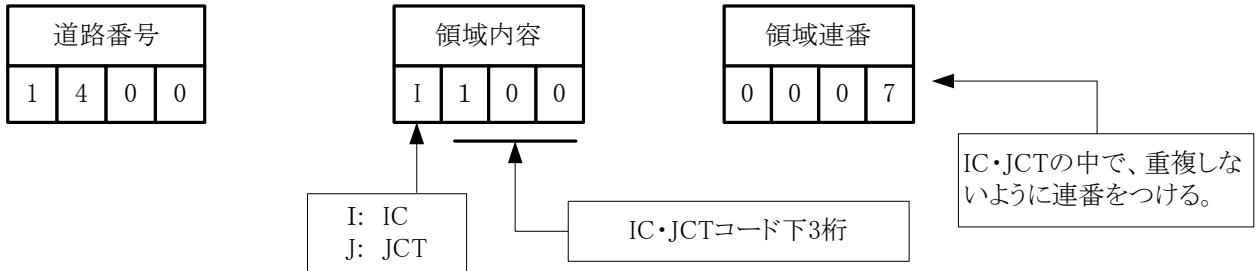
「標識柱番号」				+ 「標識板情報」									
上り線	道路番号				領域内容				領域連番				
	1	4	0	0		A	3	1	0	0	0	5	+ 上り線本線板 (前方)
	1	4	0	0		A	3	1	0	0	0	5	+ 上り線本線板 (後方)

(b) 支柱設置場所が「IC」「JCT」の場合

(ア) IC・JCTコードは、技術情報システムコードの下3桁。

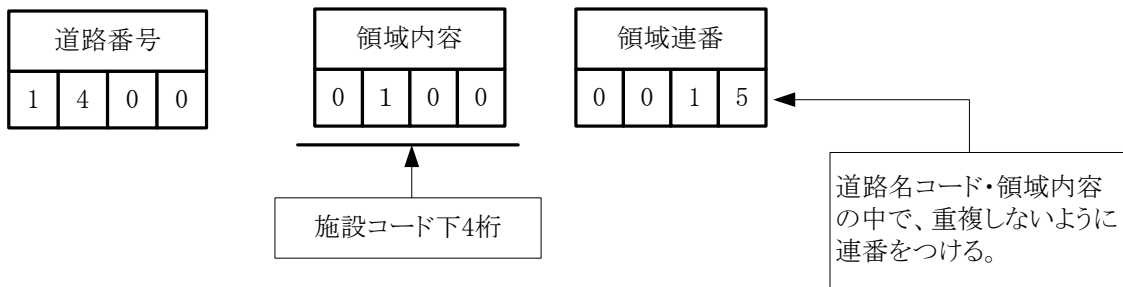
(イ) JCTの場合の道路番号は、手前側（走行している道路）の道路番号を用いる。

JCTで複数路線が関係する場合は、原則として路線番号の小さい路線の標識とし、それ以外の路線としてのデータは作成しない。

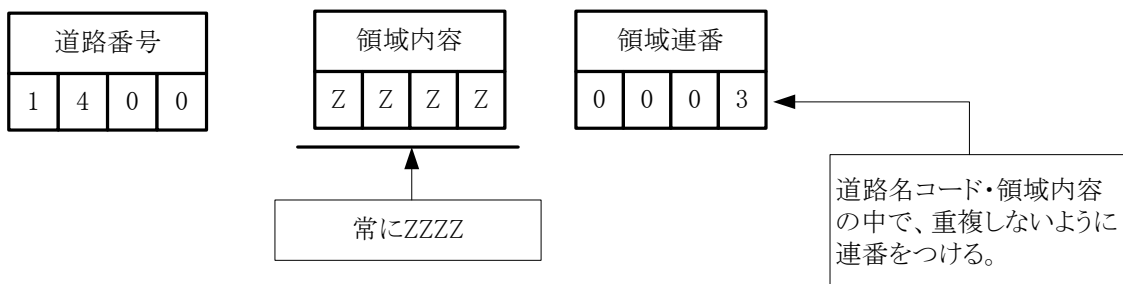


(c) 標識柱番号が「SA」「PA」「BS」「CB」「TB」の場合

(ア) 「SA」「PA」「BS」「CB」「TB」の施設コードは、技術情報システムコードの下4桁。



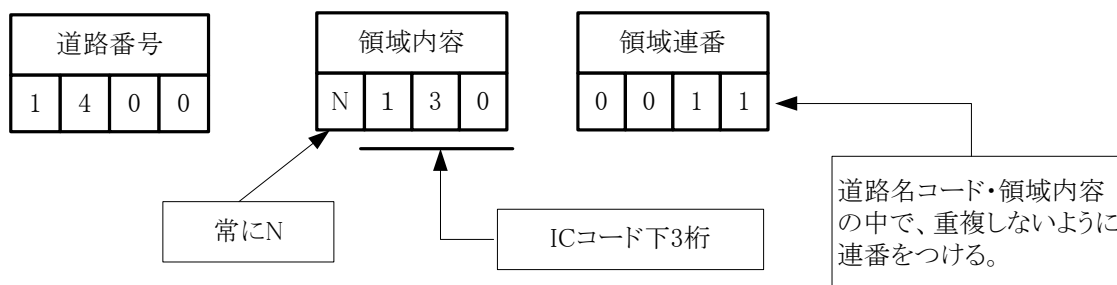
(d) 支柱設置場所が「その他」の場合



(e) 支柱設置場所が「市街地」の場合

(ア) 標識柱番号として用いる道路・ICは、標識板が案内しているICにより決定する。

(イ) 1支柱に複数の道路・ICを案内している場合は、一番近いIC側のICを採用する。



ICコードは、システムコードの下3桁

(2) 道路

当該標識支柱が設置されている道路若しくは、標識板が案内している道路名をコードから選択し入力する。

設置場所がJCT等で2路線に跨る場合、進行方向に対し手前側（走行している道路）の道路名選択して入力する。

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 管理_支社局

当該標識を管理する支社・局名をコードから選択し入力する。

(6) 管理_事務所

当該標識を管理する事務所名をコードから選択し入力する。

第13編 標識

(7) 領域内容

上下線の区分「A」or「B」+管理事務所コード2桁若しくは、IC、JCT、SA等の施設コードで構成されるキー項目を入力する。

前項目の標識柱番号で示した番号と同じものを入力する。

設置場所	下4桁	下3桁	下2桁	下1桁	
本線 上り	空白	A	○	○	管理事務所コード
TB " 下り	空白	B	○	○	"
IC	I	◎	◎	◎	ICコード
JCT	J	△	△	△	JCTコード
SA・PA・BS・CB	□	□	□	□	休憩施設コード
その他	Z	Z	Z	Z	その他
市街地	N	◎	◎	◎	市街地

記号部分は、管理番号、若しくは各施設コードの番号を示す。

(8) 領域連番

道路番号・領域内容（上下・管理事務所・IC・JCT・SA等）の中で一位になる連番を入力する。前項目の標識柱番号で示した番号と同じものを入力する。入力に際しては、番号は右詰めを入力し、空白部にはスペースとはせず0(ゼロ)を入力する。

(9) 内外区分

当該標識支柱が区域内（本線、IC・JCT・SA・PA等）に存在するか、区域外（市街地）に存在するかをコードから選択して入力する。

3-2-2 【削除】支柱基本情報資料

3-2-3 区域内支柱情報

「支柱基本情報」で示した支柱のうち、区域内に区分したものについて設置場所や諸元等を入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 始点側 IC

当該標識支柱が設置されている始点側の IC・JCT コードをコードから選択し入力する。

- (a) 始点 IC は、標識の設置されている地点から、KP の小さい方の IC を表す。
- (b) 設置場所が IC・JCT の場合、標識柱番号領域内で表した IC・JCT を入力する。
- (c) JCT は、道路番号で表した路線の JCT コードを用いる。
- (d) BS 等の施設で IC に併設されている IC 番号を入力する。

(5) 終点側 IC

当該標識支柱が設置されている終点側の IC・JCT コードをコードから選択し入力する。

- (a) 終点 IC は、標識の設置されている地点から KP の大きい方の IC を表す。
- (b) 設置場所が IC・JCT の場合、標識柱番号領域内で表した IC・JCT を入力する。
- (c) JCT は、道路番号で表した路線の JCT コードを用いる。
- (d) BS 等の施設で IC に併設されている場合は、併設されている IC 番号を入力する。

(6) 設置区分

当該標識支柱が設置されている箇所区分（本線・IC・JCT 等）をコードから選択し入力する。

- (a) 標識支柱の設置された場所を入力する。（支柱の位置）
- (b) 標識柱番号の領域内容(4桁)の上1桁の意味と一致すること。
- (c) トールバリア (TB) は、「本線」とする。

(7) 上下線区分

当該標識支柱が設置されている上下線区分をコードから選択して入力する。

(8) ルート区分

当該標識支柱が設置されているルート区分をコードから選択して入力する。

(9) STA・KP・NOの測点作成方法

当該標識支柱が、設置されている場所を示すものである。

建設時と補修時（供用後管理段階）では、測点の単位に相違があるため、測点の作成方法について以下に示すものである。

(a) 建設時

建設時の測点は、STAを用いるものとするが、KPが分かる場合は、管理_KP及び管理_Noについても作成する。加えて、当該路線のKP換算表を入手し監督員に提出するものとする。

(ア) 建設_STA

当該標識支柱が設置されている場所の測点を入力する。

(イ) 建設_ランプ

当該標識支柱が設置されているランプ名称をA, B, C, D, ……で入力する。

(ウ) 建設_NO

当該標識支柱が設置されている場所の測点を入力する。

(b) 補修時（供用後管理段階）

補修時の測点は、KPを用いるものとする。

(ア) 管理_KP

当該標識支柱が設置されている場所の測点を入力する。

(イ) 管理_ランプ

当該標識支柱が設置されているランプ名称をA, B, C, D, ……で入力する。

(ウ) 管理_NO

当該標識支柱が設置されている場所の測点を入力する。

(10) 連絡等施設

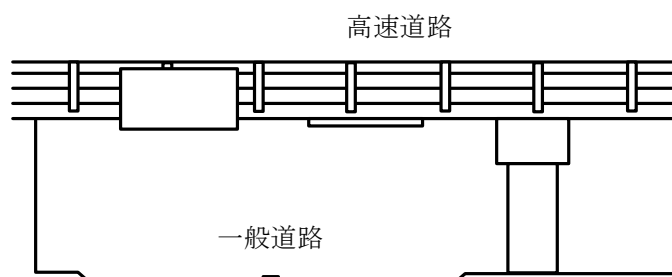
当該標識支柱がIC・JCTに存在する場合、IC・JCT名をコードから選択して入力する。（設置区分コードが、本線・市街地・その他以外の場合に入力する。）

(11) 休憩施設

当該標識支柱が、SA・PA・BS・CBに存在する場合、休憩施設等の名称をコードから選択して入力する。

(12) 構造型式

当該標識支柱の構造形式をコードから選択して入力する。下図のように高架下の一般道を対象とした標識は「0V 添架」とする。



(13) 【削除】

(14) 【削除】

(15) 柱寸法

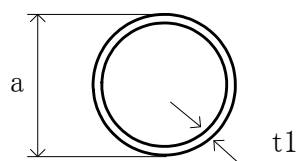
当該標識支柱の寸法を mm 単位で入力する。

番号	ケース
(a)	鋼管の場合
(b)	H 型鋼の場合
(c)	門型で支柱が複数あるの場合 (ア) 左右の支柱が同じ場合 (イ) 左右の支柱の長さが異なる場合
(d)	テーパーポールの場合
(e)	逆 L 型の場合 (F 型も同様)

(a) 鋼管の場合

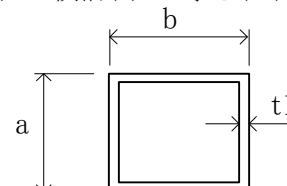
鋼管の形状を入力する。

φ 直径 (a) × 厚さ (t1) × 長さ (L)



(入力例) φ 76.3 × 3.2 × 3215

縦幅 (a) × 横幅 (b) × 厚さ (t1) × 長さ (L)

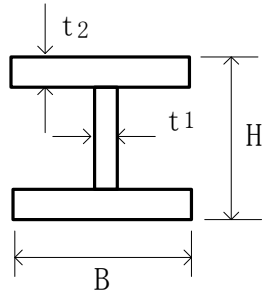


(入力例) □ 350 × 570 × 9 × 5310

(b) H 型鋼の場合

H 型鋼の形状を表示する。

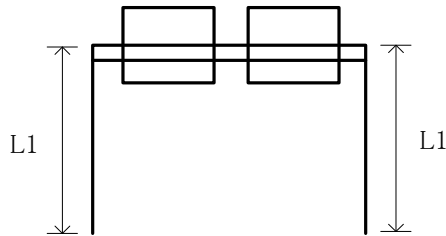
H 縦幅 (H) × 横幅 (B) × 厚さ (t1) × 厚さ (t2) × 長さ (L)



(入力例) H100×100×6×6×3019

(c) 門型等で支柱が複数ある場合

(ア) 左右の支柱が同じ場合

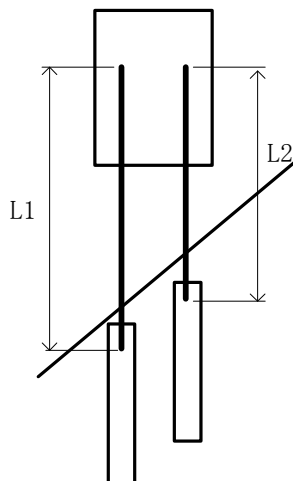


支柱寸法 : $\phi A \times t1 \times L1$

鋼管の厚み : t1

(入力例) $\phi 165.2 \times 5.0 \times 6425$

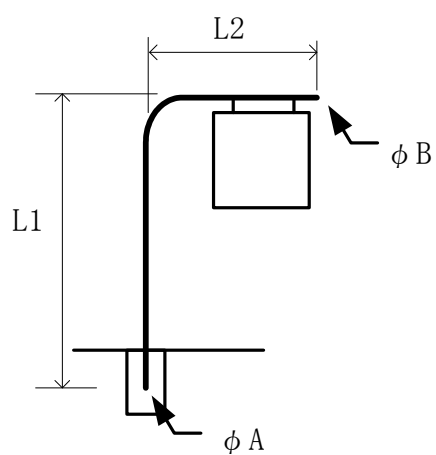
(イ) 左右の支柱の長さが異なる場合



支柱寸法 : $H(H) \times (B) \times (t1) \times (t2) \times (L1) \times (L2)$

(入力例) H175×175×7.5×11×(L1)×(L2)

(d) テーパーポールの場合

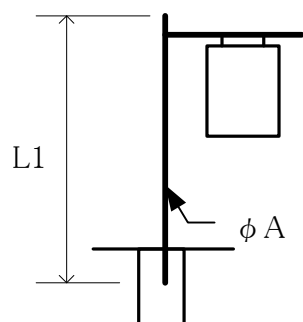


支柱寸法： $\phi A \times \phi B \times L1 \times L2$

(入力例)

$\phi 195.6 \times \phi 95 \times 7800 \times 2600$

(e) 逆L型の場合 (F型も同様)



支柱寸法： $\phi A \times t1 \times L1$

t1：鋼管の厚み

(入力例)

$\phi 267.4 \times 7.0 \times 6674$

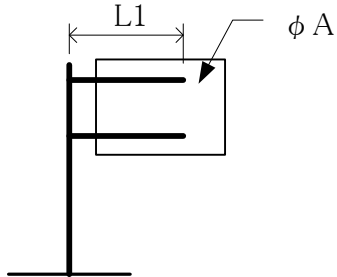
(f) 構造形式コードが、下記の場合は未入力とする。

「0V 添加」、「トンネル」、「カルバート」、「遮音壁支柱」、「高欄添加」、「その他」で支柱が無い場合。

(16) 梁寸法

当該標識支柱の構造形式が、F型、逆L型、門型、T型の場合の梁部の幅×厚さ×長さ×本数をmm単位で入力する。それ以外で梁が無い場合は、未入力とする。

(a) F型の場合

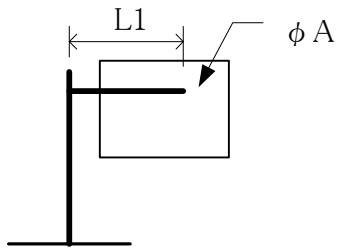


梁寸法： $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 t1：鋼管の厚み

(入力例)

$\phi 139.8 \times 4.5 \times 2950 \times 2$

(b) 逆L型の場合

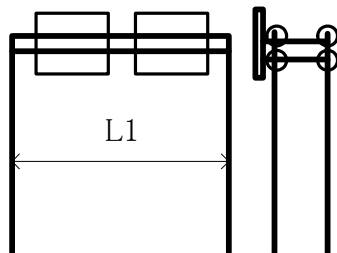


梁寸法： $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 t1：鋼管の厚み

(入力例)

$\phi 139.8 \times 4.5 \times 2650 \times 1$

(c) 門型の場合



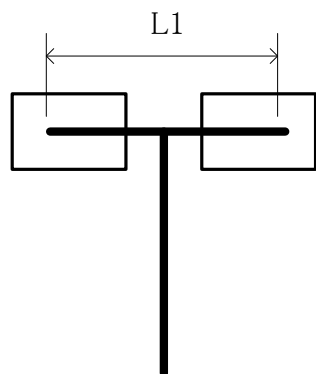
梁寸法： $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 t1：鋼管の厚み

(入力例)

$\phi 89.1 \times 3.2 \times 14000 \times 4$

部材断面の表現は、支柱寸法と同様とする。

(d) T型の場合



梁寸法： $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 $t1$ ：鋼管の厚み

(入力例)
 $\phi 165.2 \times 4.5 \times 5700 \times 1$
 部材断面の表現は、支柱寸法と同様とする。

(17) 設置補修年月

当該標識支柱を設置又は補修した年月日（西暦）を入力する。

入力例) 2003年3月1日 → 20030301

(18) 基礎形式

当該標識支柱の基礎工形式をコードから選択し入力する。

(19) 基礎寸法1 縦

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の1基目」の場合の縦寸法を入力する。入力例については下図を参照のこと。

(入力例)

形状が違う場合	形状が同じ場合	単柱の場合	円柱の場合

(20) 基礎寸法 1 横

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の 1 基目」の場合の横寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない(基礎寸法 3 直径で入力)。

(21) 基礎寸法 1 高さ

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の 1 基目」の場合の高さ寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(22) 基礎寸法 1 基数

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の 1 基目」の場合の基数を入力する。

(23) 基礎寸法 2 縦

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の縦寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(24) 基礎寸法 2 横

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の横寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(25) 基礎寸法 2 高さ

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の高さ寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(26) 基礎寸法 2 基数

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の基数を入力する。

(27) 基礎寸法 3 直径

当該標識支柱基礎部が円形の場合の直径寸法を入力する。

(28) 基礎寸法 3 基数

当該標識支柱基礎部が円形の場合の基数（個数）を入力する。

(29) 【削除】

(30) 【削除】

(31) 【削除】

(32) 【削除】

(33) 【削除】

(34) 【削除】

(35) 【削除】

3-2-4 区域外支柱情報

「3-2-1. 支柱基本情報」で示した支柱のうち、区域外に区分したものについて設置場所や諸元等を入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 目標 IC

当該標識が案内している IC をコードから選択して入力する。1 基の標識で複数の IC を案内している場合は近いもの順に最大 3 つまで入力する。

(5) 【削除】

(6) 占用場所

当該標識が設置されている場所（国道・都道府県道・市町村道等）をコードから選択し入力する。占用が無い場合は、未入力とする。

(7) 占用道路名

前項目の「3-2-4. 区域外支柱情報 (6) 占用場所」で示した道路名を入力する。占用が無い場合は未入力とする。

入力例) 「国道 1 号線」、「主要地方道 石岡・笠間線」

(8) 占用地住所

標識柱が占用している住所を市町村名から入力する。占用が無い場合は未入力とする。

入力例) ○○市△△××番地

(9) 占用地管理者

当該標識の占用地管理者を入力する。占用が無い場合は、未入力とする。

入力例) 「土浦土木事務所」、「常陸国道工事事務所」のように出先機関を入力する。

「国」、「茨城」、「関東地方建設局」のように入力してはならない。

(10) 【削除】

(11) 【削除】

(12) 【削除】

(13) 他の施設利用

当該標識の他施設利用設置区分をコードから選択して入力する。

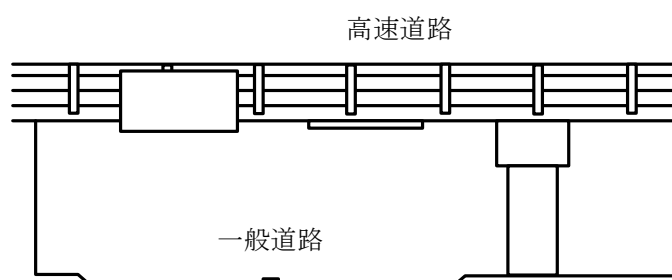
横断歩道や信号機等の施設として使用されているような場合の選択優先順位は下記のとおりとする。他の施設を利用していない場合は、「なし」を入力する

●優先順位

- 1：横断歩道
- 2：電柱
- 3：照明灯
- 4：信号機
- 5：他の標識板
- 6：他の支柱
- 7：その他

(14) 構造型式

当該標識支柱の構造形式をコードから選択して入力する。高架下の一般道を対象とした標識は「0V 添架」とする。



(15) 【削除】

(16) 【削除】

(17) 柱寸法

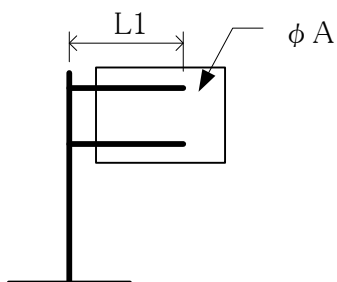
支柱の寸法を mm 単位で入力する。

(18) 梁寸法

当該標識支柱の構造形式が F 型、逆 L 型、門型、T 型の場合の梁部の幅×厚さ×長さを mm 単位で入力する。

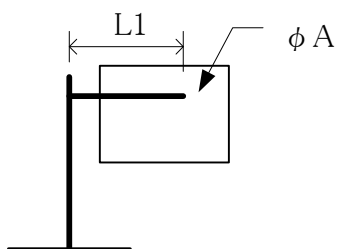
F 型・逆 L 型・門型・T 型の場合は、入力する。それ以外で梁が無い場合は、未入力とする。

(a) F 型の場合



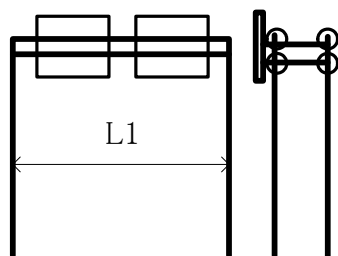
梁寸法: $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 $t1$: 鋼管の厚み
 (入力例)
 $\phi 139.8 \times 4.5 \times 2950 \times 2$

(b) 逆 L 型の場合



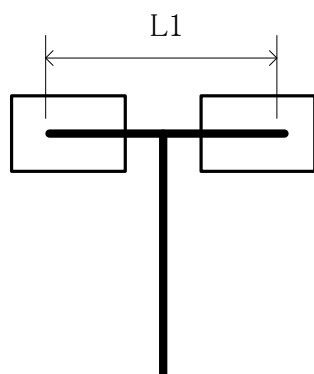
梁寸法: $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 $t1$: 鋼管の厚み
 (入力例)
 $\phi 139.8 \times 4.5 \times 2650 \times 1$

(c) 門型の場合



梁寸法: $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$
 $t1$: 鋼管の厚み
 (入力例)
 $\phi 89.1 \times 3.2 \times 14000 \times 4$
 部材断面の表現は、支柱寸法と同様とする。

(d) T型の場合



梁寸法: $\phi A \times t1 \times L1 \times \text{本数}$

$t1$: 鋼管の厚み

(入力例)

$\phi 165.2 \times 4.5 \times 5700 \times 1$

部材断面の表現は、支柱寸法と同様とする。

(19) 設置補修年月

当該標識支柱を設置又は補修した年月日（西暦）を入力する。

入力例) 2003年3月1日 → 20030301

(20) 基礎形式

当該標識支柱の基礎工形式をコードから選択して入力する。

(21) 基礎寸法1縦

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の1基目」の場合の縦寸法を入力する。

(22) 基礎寸法1横

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の1基目」の場合の横寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(23) 基礎寸法1高さ

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の1基目」の場合の高さ寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(24) 基礎寸法1基数

当該標識支柱基礎部が、「単独の場合」又は「同一形状の基礎が複数基ある場合」又は「形状が複数ある場合の1基目」の場合の基数を入力する。

第 13 編 標識

(25) 基礎寸法 2 縦

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の縦寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(26) 基礎寸法 2 横

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の横寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(27) 基礎寸法 2 高さ

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の高さ寸法を入力する。ただし、断面が円形の基礎は入力しない。

(28) 基礎寸法 2 基数

当該標識支柱基礎部が複数あり、形状が違う場合の 2 基目の基数を入力する。

(29) 基礎寸法 3 直径

当該標識支柱基礎部が円形の場合の直径寸法を入力する。

(30) 基礎寸法 3 基数

当該標識支柱基礎が単独若しくは同一寸法のもの基数（個数）を入力する。

(31) 【削除】

(32) 【削除】

(33) 【削除】

(34) 【削除】

(35) 【削除】

(36) 【削除】

(37) 【削除】

3-2-5 標識板情報

「3-2-1. 支柱基本情報」で示した支柱に設置した標識板1毎にデータを入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 標識板番号

1支柱（同一標識柱番号）に設置されている全標識板を1から順次連番で入力する。

支柱が門型支柱型で、上下線両方向に標識板が3枚ずつある場合、上下線毎に標識柱番号が異なるため、上り線標識柱番号に対して1～3、下り線標識柱番号に対して1～3を標識板番号として付与する。

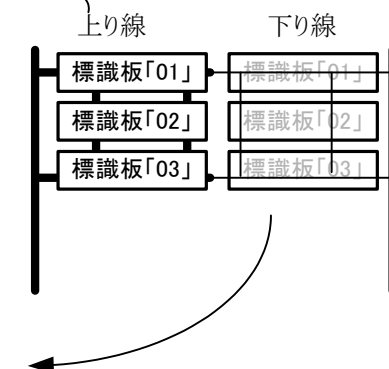
入力例)

(3) 標識柱番号

1	4	0	0	A	3	1	0	0	1	6
1	4	0	0	A	3	1	0	0	1	6
1	4	0	0	A	3	1	0	0	1	6
1	4	0	0	B	3	1	0	0	2	6
1	4	0	0	B	3	1	0	0	2	6
1	4	0	0	B	3	1	0	0	2	6

(4) 標識板番号

0	1
0	2
0	3
0	1
0	2
0	3



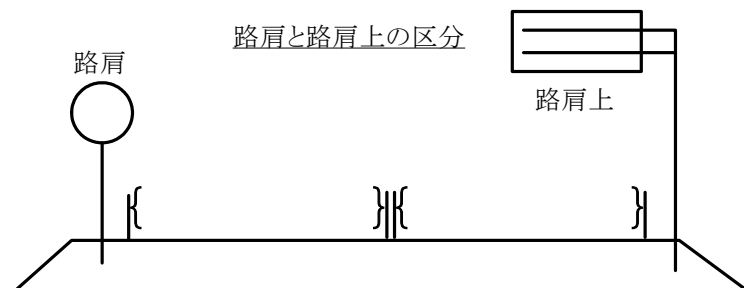
(5) 標識分類

標識板の目的種類をコードから選択して入力する。

(6) 設置箇所

標識板の設置されている位置（路肩・第一走行車線上等）をコードから選択して入力する。

トンネル等で車線が分離している場合の右路肩側は、中央分離帯とはせず路肩とする。
広域電光案内板等本線全般に渡っている場合は、「その他」を選択する。



(7) 標識板種別

標識板の視認・判読方式（高輝度式・内照式・回転式等）をコードから選択して入力する。

(8) 【削除】

(9) ローマ字併用

標識板の案内文字にローマ字使用の有無をコードから選択して入力する。

有： 標識内の日本語に対し、全てにローマ字（英語）が有る場合。

無： 標識内の日本語に対し、全てにローマ字（英語）が無い場合。

一部有： 標識内の日本語に対し、一部にローマ字（英語）が有る場合。

(10) 表示内容

案内標識の場合のみ、標識板の記載内容を20文字以内入力する。

同一案内標識に複数の表示がある場合、会社の施設を優先する。

(11) 縦寸法

標識板の縦の寸法（mm）を入力する。

標識板が円形の場合には、縦寸法は未入力とする。

(12) 横寸法

標識板の横の寸法（mm）を入力する。

標識板が円形の場合には、横寸法は未入力とする。

(13) 直径

円形の標識板の直径寸法（mm）を入力する。

- (14) 車道からの高さ
車道の路面から、当該標識板の最下部までの高さを（mm）を入力する。
- (15) 【削除】
- (16) 【削除】
- (17) 標識令番号
当該標識の標識令番号(109, 111 - A, 116 - A 等)を入力する。
- (18) 目標連絡施設
案内標識板が案内する連絡施設をシステムコードから選択して入力する。
複数施設を案内している場合は、最も近い施設を対象にする。
案内標識以外の場合は、未入力とする。
- (19) 目標休憩等施設
案内標識板が案内する休憩施設をシステムコードから選択して入力する。
複数施設を案内している場合は、最も近い施設を対象にする。
案内標識以外の場合は、未入力とする。
- (20) 案内標識種別
「案内標識」の場合に記載内容をコードから選択して入力する。
案内標識以外の場合は、未入力とする。
- (21) 設置補修年月
建設時は施工開始年月を、補修時は補修年月日を、（西暦）で入力する。
入力例) 令和2年3月 → 202003

3-2-6 施工補修情報

「3-2-1. 支柱基本情報」で示した支柱の中で、補修した標識に関する情報を示すものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 施工補修年月

当該標識を補修した年月（西暦）を入力する。

入力例) 令和2年3月 → 202003

(5) 経歴番号

1 支柱番号に対して、建設時や新規設置は「01」を入力する。補修や取替えが発生する度にその履歴（1 ずつ増加させた数値「02」「03」・・・）を入力する。

(6) 施工補修箇所

当該標識を補修した箇所をコードから選択して入力する。

(7) 施工補修内容

当該標識を補修した内容（新設、取替、表示内容変更等）をコードから選択し入力する。

(8) 補修理由

当該標識を補修した理由（腐食、老朽化、事故による損傷 等）をコードから選択して入力する。

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 【削除】

(12) 備考

当該標識工事等での留意事項等を 60 字内で入力する。

(13) 契約番号

当該標識の補修工事の契約番号を入力する。